学校法人大阪歯科大学

第2期中期計画

(2025年度～2029年度)

2025年3月28日

学校法人大阪歯科大学

第2期中期計画(2025年度～2029年度)策定に当たって —はじめに—

学校法人大阪歯科大学は、建学の精神「博愛公益」に基づき、第1期中期計画について鋭意注力し、医療系総合大学として一層の充実を図ってきたところである。

このたび、理事会において7つの基本的重点項目を設定し、第2期中期計画(2025年度～2029年度)を策定した。本計画は、大学基準協会の大学評価(機関別認証評価)及び歯学教育評価(分野別評価)の結果を踏まえるとともに、文部科学省・中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」にある「学修者本位の教育」の実現のため教育・学修成果の可視化やSDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」に関する教育研究面の取組みを含んでいる。さらに、附属病院の機能を一層高度化し、市民への地域医療に貢献していくものである。

教職員各位におかれては、本学の発展のために第1期中期計画に引き続き、特段のご協力をお願いする次第である。

—建学の精神—

歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕的人生観を体得して、博愛と公益に努める。

—基本的重点項目—

- [1]教育力を高め、教育の質保証及び各国家試験の高水準の合格率維持と優れた医療人の輩出
- [2]研究力及び研究の質の向上、海外研修制度の充実と国際交流の活性化
- [3]附属病院改革による病院機能の強化及び収支改善
- [4]社会貢献・地域連携の積極的展開
- [5]財政基盤の充実
- [6]戦略的人事政策の策定と実行
- [7]管理運営体制の強化

[1]教育力を高め、教育の質保証及び各国家試験の高水準の合格率維持と優れた医療人の輩出

○教育研究組織

[大学全体]

- ・私立大学等改革総合支援事業の採択に向けた取り組みを強化する。
- ・ODU学部横断プログラムの充実を図る。
- ・歯学部、歯学研究科、医療保健学部、医療保健学研究科、附属病院、看護学部、TRIMIの連携を強化する。
- ・大学院看護学研究科設置の実現に向けた準備を進める。
- ・教育の質の向上を目指し、本学大学学則、大学院学則の改正を含む教学関係規程及び諸制度の不断の見直しを行い、教育の質保証に向けた方策を充実させる。
(各学部学科の目的、高等教育の修学支援制度等の設定)
- ・適合判定を受けた機関別認証評価(2022年4月1日～2029年3月31日)の改善課題等への取り組みを進める。

○教育課程・教育成果

[大学全体]

- ・本学全体の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を踏まえて制定したアセスメント・プランに基づき
1. 機関(大学)レベル、2. 学位プログラム(学部・学科)レベル、3. 授業科目レベルの3段階レベルで、学修成果・教育成果を客観的に測定・評価する。
- ・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)及び学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)に基づいた教育の質の向上について不断に検証するとともに改善を図る。
- ・GPA制度の活用を図る。
- ・教育の可視化を推進し、「学修者本位の教育」の一層の充実を図り、教育課程を整備する。
- ・学生の授業評価による授業内容の改善を図る。
- ・情報リテラシー教育の一層の充実を図る。
- ・アクティブ・ラーニングの授業実施率を上げる。

[歯学部]

- ・進級率(2学年～4学年)100%を目指す。
- ・歯科医師国家試験において新卒者95%以上の合格率継続達成及び最低修業年限での合格率60%以上を目指す。
- ・CBT本試験合格80%以上、OSCEの高位合格率の確保を目指す。

- ・ G P A 制度の活用を検討する。
- ・ 歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験の体制を整備し、高位合格率を確保する。
- ・ 適合判定を受けた歯学教育分野別評価（2024 年 4 月 1 日～2031 年 3 月 31 日）の改善課題への取り組みを進める。
- ・ 学生の研究マインドの向上に努める。

[歯学研究科]

- ・ 大学院学則に掲げる研究科の目的に合致する人材を育成する。
- ・ 専攻科単位のリサーチワークとコースワークとの適切な組み合わせによる教育課程を検討する。
- ・ 科目の配当年次について規定化を行う。
- ・ 学位論文審査基準を『大学院歯学研究科ハンドブック』に明記するとともにホームページ上に公表する。
- ・ プレ F D（T A（ティーチング・アシスタント）制度の活用、大学院セミナー等）の内容を充実させるとともに、その情報提供の徹底に努める。

[医療保健学部]

- ・ 歯科衛生士・歯科技工士国家試験での高水準合格率を維持する。
- ・ 社会福祉士コースによるダブルライセンス取得の推奨
- ・ 口腔工学科にシステム口腔工学コース、医療情報系科目群を新設し、卒業後の就職に有利になる資格の取得を目指す。

[医療保健学研究科]

- ・ 大学院学則に掲げる研究科の目的に合致する人材を育成する。
- ・ 学位論文審査基準を学生に明示するとともにホームページ上に公表する。
- ・ プレ F D（T A（ティーチング・アシスタント）制度の活用、大学院セミナー等）の内容を充実させるとともに、その情報提供の徹底に努める。

[看護学部]

- ・ 教学マネジメントの確立に向けて取り組みを行う。
- ・ 学修成果・教育効果の把握・可視化の取り組みを促進する。
- ・ 教育活動の改善・充実に向けて、F D・S Dを組織的かつ体系的に実施する。
- ・ シミュレーション教育を推進し、学生の主体的かつ能動的学修の支援を図る。
- ・ 実習目標達成のため、臨地実習をはじめ看護学実習の実施指導体制を整備する。

- ・ 国家試験対策の充実を図り、合格率 100%の実現を目指す。
- ・ 完成年度（2027 年度）以降、分野別評価受審も視野に入れ、看護学教育モデル・コア・カリキュラムに対応した教育改革を進める。

○学生の受け入れに関する取り組みの強化

[大学全体]

- ・ 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づいた能力・意欲・適正等を多面的・総合的に評価する入学者選抜を継続して実施する。
- ・ 各学部入試競争倍率の高倍率化に努める。
- ・ 高大連携の強化を図る。
- ・ 初年次教育を一層充実させる。

[歯学部]

- ・ 入試競争倍率 3.0 以上を目指す。
- ・ オープンキャンパスの内容を一層充実させる。
- ・ 入学者選抜方法（多様化の取り組み）を検討する。
- ・ 収容定員に対する在籍学生比率の改善を図る。

[歯学研究科]

- ・ 歯科基礎系専攻の学生の確保を図る。
- ・ 外国人留学生についてのアドミッション・ポリシーと入学者選抜方法との整合性を検証し、充実を図る。
- ・ ホームページ（英語版を含む）の内容の充実を図る。

[医療保健学部]

- ・ 入学定員（口腔保健学科、口腔工学科）100%充足を確保する。
- ・ オープンキャンパスの内容を一層充実させる。
- ・ 入学者選抜方法（多様化の取り組み）を検討する。
- ・ 初年次教育を一層充実させる。

[医療保健学研究科]

- ・ 修士課程及び博士課程（後期）における大学院生の恒常的確保を図る。

[看護学部]

- ・ アドミッション・ポリシーを基本とし、多様な選抜方法の充実を図るとともに、その成果を継続的に検証し、必要に応じて見直しを行う。

- ・京阪沿線を中心に募集重点地域と捉え、積極的に学生募集活動を行い、高等学校との関係強化、オープンキャンパス内容の一層の充実を図る。
- ・最新の学修環境、シミュレーション教育等、学部のPRポイントをより明確にし、Webコンテンツ拡充に努め情報発信力を高める。
- ・本学協定締結校との高大連携・接続プログラム実施を重視し、実施校との意見交換等を踏まえ、その効果を検証し改善に努める。

○学生支援

[大学全体]

- ・学年指導教授、助言教員等によるきめ細かいサポート体制を推進し、学生支援体制の充実を図る。
- ・オフィスアワーによる一層きめ細かな学修指導を行う。
- ・学生相談体制の充実と強化を図る。
- ・高等教育の修学支援制度の導入により学生生活の支援の充実を図る。
- ・キャリア支援の体制を整える。

[歯学部]

- ・学年指導教授、助言教員、教育アドバイザーの連携による学生支援活動を強化する。
- ・看護師、臨床心理士による学生相談体制の拡充を図る。
- ・学部生への進路支援（研修歯科医マッチング制度）の充実を図る。
- ・高等教育の修学支援制度の導入により学生生活の支援の充実を図る。

[歯学研究科]

- ・経済的負担軽減措置の充実を図るとともにその情報を適宜公表していく。

[医療保健学部]

- ・学年指導教授、助言教員、学生相談室（看護師、臨床心理士）による学生支援の強化を図る。
- ・高等教育の修学支援制度の導入により学生生活の支援の充実を図る。
- ・キャリア教育の充実（キャリアセンタースタッフの充実）を図る。
- ・卒業生の高就職率を目指す。

[医療保健学研究科]

- ・経済的負担軽減措置の充実を図るとともにその情報を公表する。

[看護学部]

- ・学年担任制を中心とした全教職員による継続的な支援体制を整備する。
- ・学生生活に関するガイダンスを実施し、外部講師による防犯等各種セミナーを開催する。
- ・高等教育の修学支援制度の導入により学生生活の支援の充実を図る。
- ・キャリア支援の充実を図り、学年進行に応じたオリエンテーション・キャリア支援等を実施し、就職内定率 100%を目指す。

[2]研究力及び研究の質の向上、海外研修制度の充実と国際交流の活性化

○研究活動

- ・本学（医療イノベーション研究推進機構（TRIMI））と三条市立大学、立命館大学との共同研究を推進する。
- ・東大阪市、同市東歯科医師会、西歯科医師会と本学（TRIMI）との包括連携協定により、健康・医療・介護及び福祉分野における研究や医療現場における課題解決を目指す。
- ・TRIMI による特許研究の商品化・事業化支援、特許取得の支援を推進する。
- ・国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業」関係の研究を推進する。
- ・SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」にある「No.1 貧困をなくそう」「No.4 質の高い教育をみんなに」「No.5 ジェンダー平等を実現しよう」に関し、本学全体で50件の教育研究面での取り組みを推進する。
- ・医療系学部・研究科の特色を生かして研究ブランド力の確立を目指す。
- ・各研究費公募状況の把握と、公的研究費（競争的資金）の獲得を目指す。
- ・科学研究費申請数、採択数の増加により研究力アップに繋げる。
- ・関西医科大学、摂南大学との医歯薬連携協定による共同研究を推進する。
- ・研究環境・支援体制を整備し強化を図る。

○国際交流

- ・国際化に対応できる人材育成教育プログラムの開発を行い発展させる。
- ・中国・アジア・北米・南米・オセアニア・ヨーロッパの交流協定締結校への学生の短期海外留学の充実を図り、国際社会に貢献する人材を養成する。
- ・ダブル・ディグリー・プログラムの導入により医療保健学部教育の充実を図る。
- ・大学院への留学生、研究者の受け入れの促進を図る。

[3] 附属病院改革による病院機能の強化及び収支改善

第2期中期計画（2025年度～2029年度）について下記のとおり評価し、病院単独黒字達成のため2025年度以降の目標を定める。

- ・ 自費診療の推進による適用症例の増加
- ・ 外部医療機関入院患者や老健施設入所者等に対する歯科訪問への積極参入
- ・ 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受けるべく基盤整備を行う。
- ・ 医療安全管理室の機能を強化し、医療安全に対する意識の一層の向上強化を図る。
- ・ 附属病院組織改革委員会での議論に基づき、収支黒字化を目指した各種増収策を推進するとともに、病院情報システムの更新による診療効率化、業務の合理化、経費の削減などにより、医療サービスの一層の質的向上と診療情報のセキュリティ強化を図る。
- ・ 17診療科の延べ患者数の増加を目指す。
- ・ 土曜日診療を継続し、また、診療開始から、終了に至るまで絶えまなく診療を提供できるように、受付事務等による総合的な環境の拡充を図る。
- ・ 附属病院周辺地域の医療機関と連携し、地域包括ケアシステムに積極的に参画するとともに、病診連携講演会を定期的を開催し、紹介患者の促進、情報交換、交流を行う。
- ・ 附属病院内に開設の大阪国際先制医療センターにおいて歯科領域にとどまらない先進的な医療の提供に取り組む。
- ・ 患者への説明責任、医療倫理の遵守とその徹底を行う。
- ・ 先進的な歯科治療を提供する役割を発揮するため、地域医療機関からの紹介患者や介護老人保健施設からの受け入れを円滑に進める。
- ・ 高度先進歯科治療として、従来の矯正歯科、インプラント歯科治療に加え、以下の取り組みを展開する。
 - ①顎変形症の口腔外科的矯正治療、②デジタルDXによるクラウンブリッジ（金属を用いない白い歯）、③ダイレクトコンポジットレジン（歯を削らない修復治療）、④3Dプリンタによる歯科治療（スぺア義歯を可能とするもの）
- ・ CAD/CAMシステムを駆使し、技工物内製化により効率化を図る。
- ・ デジタルサイネージ等の設備の拡充により受診中の患者に対する、よりきめ細やかな最新情報の提供に努める。
- ・ 臨床実習や近隣の協力型研修施設との複合研修方式を中心とした卒後臨床研修等の制度を支援し得る、本学歯学部・医療保健学部等の卒前・卒後教育及び生涯にわたる医療人としての研修の場としての役割を強化する。

[4]社会貢献・地域連携の積極的展開

- ・厚生労働省の受託事業として設置された歯科衛生士研修センターにより、歯科衛生士の復職支援及び離職防止の取り組みを引き続き積極的に推進し、歯科衛生士のリカレント教育の拠点としての活動を継続する。
- ・学校法人関西医科大学、学校法人常翔学園との連携協定により地域連携を強化する。
- ・学園都市ひらかた推進協議会、健康医療都市ひらかたコンソーシアムへの積極的な参画を図る。
- ・枚方市が主催するアダプトプログラムの参加団体（大阪歯科大学 ODU ソーシャルコミュニティ）となり、環境美化活動に参画し、学生の社会人基礎力を涵養する。
- ・地域連携・実践研究センターによる地域交流・地域貢献を推進する。（看護学部）
- ・市民と大学の架け橋として永年開催されている大阪歯科大学公開講座に関して、最新情報を盛り込み一層の充実を図る。

[5]財政基盤の充実

- ・安定的な経営を目指し、収支構造の改善と財政基盤のさらなる充実を図る。
- ・外部資金獲得力の向上を図る（公的補助金、寄附金等）。

[6]戦略的人事政策の策定と実行

- ・建学の精神を遵守し、本学の発展に真に寄与する高潔な人格と識見及び私立大学の教員としての自覚を有し、教育、研究、臨床に情熱をもつ者の恒常的選考を行う。
- ・教員候補者資格審査基準の厳格化を図る。
- ・在籍学生数の男女比に鑑み、女性教員の割合を高めるよう努める。
- ・人事委員会を中心に、将来を見据えた戦略的な職員の人員配置計画を策定し、可能な限り人件費の抑制を目指す。
- ・ファカルティ・ディベロップメント（FD）、スタッフ・ディベロップメント（SD）の活性化を図る。
- ・働き方改革の一層の推進を図る。
- ・大学を取り巻く環境の変化に対応すべく、教員組織の編制方針による教員配置の適切性と事務組織の業務内容の見直しを行い、一層の効率化を図る。

[7]管理運営体制の強化

- ・理事長・学長のリーダーシップのもと、本法人の意思決定機関としての理事会、教学における学長の諮問機関である歯学部主任教授会、医療保健学部教授会、歯学研究科会議、医療保健学研究科会議、看護学部教授会及び各種委員会が一層連携を密にし、改革・改善に取り組む。
- ・大学運営の方針に沿った中期計画の執行を管理する中期計画管理委員会を立ち上げる。
- ・大学ホームページ等による法人・教学部門の情報公開をより一層充実させる。

○自己点検評価・認証評価

- ・理事会を中心に大学のガバナンス体制をより充実させるとともに、内部統制システムの機能強化を図る。
- ・大学協議会/自己点検・評価委員会による全学的教学マネジメント体制の充実を図るとともに、適合判定を受けた機関別認証評価（2022年4月1日～2029年3月31日）の改善課題等への取り組みを進める。
- ・PDCAサイクルによる各部門の点検・評価体制の強化に努める。

○教育研究等環境の整備

- ・天満橋キャンパスに患者用立体駐車場、先端歯科診療フロア等を備えた災害に強靱な新棟を建設する（2029年12月までに竣工）。
- ・本学の耐震化率について2028年度（令和10年度）までに100%達成を目指す。
- ・3キャンパス（楠葉・牧野・天満橋）の施設整備を計画的に進める。
- ・全学情報システム運営体制の整備を図る。